

第1号様式（第12条関係）

該当するもの以外を二重取り消し線

ばい煙発生施設設置（~~使用、変更~~）届出書

平成28年11月30日

〇〇保健所長 殿

提出先の保健所長

提出日

（設置、変更：届出後、60日を経過後に設置等可）
（使用：施設となった日から30日以内）

郵便番号（●●●-●●●●●）

那覇市泉崎1丁目〇-〇

届出者 株式会社〇〇〇〇

代表取締役 〇〇 〇〇

電話番号（●●●-●●●-●●●●●）

（氏名又は名称及び住所並びに法人にあってはその代表者の氏名）

印

沖縄県生活環境保全条例第8条第1項（~~第9条第1項、第10条第1項~~）の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	〇〇工場 沖縄支店	※ 整理番号	
工場又は事業場の所在地	沖縄県〇〇市〇〇〇-〇	※	沖縄県生活環境保全条例施行規則別表第1に記載されている項番号及び施設名を記入する
ばい煙発生施設の種別	1の項 ボイラー1基	※ 施設番号	
△敷地内における建築物及び施設の配置	別紙1のとおり。	※ 審査結果	
△ばい煙発生施設の構造	別紙2のとおり。	※ 備考	
△ばい煙発生施設の使用の方法	別紙3のとおり。		
△ばい煙の処理の方法	別紙4のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類の項には、沖縄県生活環境保全条例施行規則別表第1に掲げる項番号及び施設名（施設の名称）を記載すること。
- 2 △印の項の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
- 3 ※印の項には、記載しないこと。
- 4 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 5 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き日本工業規格A4とすること。
- 6 氏名（法人にあってはその代表者の氏名）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあってはその代表者）が署名することができる。

別紙1

敷地内における建築物及び施設の配置
別紙の通り

- 備考 1 建築物の用途及び施設の番号を記入すること。
2 他に適当な図面があれば、それによることできる。

別紙2

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		1号ボイラー		事業場での施設番号 なければ、通し番号																
名称及び型式		〇〇型ボイラー																		
設置年月日		年月日																		
着手予定年月日		平成〇年〇月〇日																		
使用開始予定年月日		平成〇年〇月〇日																		
規模	伝熱面積 (m ²)	6	該当する施設の規模を記入	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項</th> <th>施設の種類</th> <th>規模種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ボイラー</td> <td>伝熱面積</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>金属精製用溶解炉</td> <td rowspan="5">火格子面積、羽口面断面積、バーナーの燃焼能力、変圧器の定格容量</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>窯業製品製造用焼成炉・溶解炉</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>無機化学工業品・食料品製造用反応炉・直火炉</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>廃棄物焼却炉</td> <td>火格子面積、焼却能力</td> </tr> </tbody> </table>	項	施設の種類	規模種類	1	ボイラー	伝熱面積	2	金属精製用溶解炉	火格子面積、羽口面断面積、バーナーの燃焼能力、変圧器の定格容量	3	窯業製品製造用焼成炉・溶解炉	4	無機化学工業品・食料品製造用反応炉・直火炉	5	廃棄物焼却炉	火格子面積、焼却能力
	項	施設の種類			規模種類															
	1	ボイラー			伝熱面積															
	2	金属精製用溶解炉			火格子面積、羽口面断面積、バーナーの燃焼能力、変圧器の定格容量															
	3	窯業製品製造用焼成炉・溶解炉																		
	4	無機化学工業品・食料品製造用反応炉・直火炉																		
	5	廃棄物焼却炉				火格子面積、焼却能力														
	燃料の燃焼能力 (重油換算 L / h)	35.4																		
	原料の処理能力 (t / h)																			
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)																			
変圧器の定格容量 (K V A)																				
触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg / h)																				
焼却能力 (kg / h)																				
乾燥施設の容量 (m ³)																				
電流容量 (K A)																				
ポンプの動力 (K W)																				
合成、漂白、濃縮能力 (kg / h)																				

備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月年月日の項に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日それぞれ記載すること。
2 規模の項には、沖縄県生活環境保全条例施行規則別表第1の施設名の欄に掲げる施設に係る規模又は能力の欄に規定する項目について記載すること。ただし、ボイラーのうち液体燃料を使用するものにあつては、バーナーの燃料の燃焼能力の項目について記載すること。
3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本工業規格のA4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		1号ボイラー					
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	8時～20時 12時間/1回1回/日30日/月		事業場での施設番号なければ、通し番号			
	季節変動	なし					
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類	/		原材料を燃やす場合記入。			
	使用割合						
	原材料中の成分割合 (%)			いおう分 カドミウム分	鉛分 フッ素分	いおう分 カドミウム分	鉛分 フッ素分
	1日の使用量						
燃料又は電力	種類	A重油					
	燃料中の成分割合 (%)	灰分	いおう分 0.10	窒素分	灰分 　いおう分 　窒素分		
	発熱量	46000 kJ / m ³ N					
	通常の使用量	35 L/h					
	混焼割合	専燃					
排出ガス量 (Nm ³ /h)	湿り	最大800	通常600	最大	通常		
	乾き	最大400	通常300	最大	通常		
排出ガス温度 (℃)		150					
排出ガス中の酸素濃度 (%)		4		メーカーから示された数値や算定により記入。			
ばい煙の濃度	ばいじん (g / Nm ³)	最大 0.15	通常	最大	通常		
	いおう酸化物 (容量比 ppm)	最大	通常	最大	通常		
	カドミウム及びその化合物 (mg / Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	塩素 (mg / Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	塩化水素 (mg / Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	フッ素、フッ化水素及びフッ化珪素 (mg / Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	鉛及びその化合物 (mg / Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ / h)	最大0.019	通常0.019	最大	通常		
参考事項							

- 備考 1 原材料中の成分割合 (%) の項及び燃料中の成分割合 (%) の項の記載に当たっては、重量比% 又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の項には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての1工程中の排出量の変動の状況等を記載すること。

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号		一号煙突		事業場での施設番号 なければ、通し番号		
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号		1号ボイラー				
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式						
設置年月日		年月日		年月日		
着手予定年月日		平成〇年〇月〇日		年月日		
使用開始予定年月日		平成〇年〇月〇日		年月日		
処理能力	排出ガス量 (Nm ³ /h)	最大				
		通常				
	排出ガス温度 (°C)	処理前				
		処理後				
	ばい煙の濃度	ばいじん (g/Nm ³)	処理前	0.15	該当する方法を記入	
			処理後	0.15		
		いおう酸化物 (容量比ppm)	処理前			
			処理後			
		カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)	処理前			
			処理後			
		塩素 (mg/Nm ³)	処理前			
			処理後			
		塩化水素 (mg/Nm ³)	処理前			
			処理後			
	フッ素、フ化水素及びフ化珪素 (mg/Nm ³)	処理前				
		処理後				
	鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)	処理前				
		処理後				
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ /h)	最大	処理前 0.019			
			処理後 0.019			
		通常	処理前			
			処理後			
捕集効率 (%)	ばいじん					
	いおう酸化物					
	カドミウム及びその化合物					
	塩素					
	塩化水素					
	フッ素、フ化水素及びフ化珪素					
	鉛及びその化合物					
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等		8時~20時 12時間/1回1回/日30日/月	時~時 時間/回回/日日/月		
	季節変動		無し			
排出口の実高さ H _o (m)		8 (0.51Φ)				
補正された排出口の高さ H _e (m)		8 (笠有り)				
排出速度 (m/s)		0.5				

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の項に年月日の項に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用それぞれ記載すること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 補正された排出口の高さH_eは、沖縄県生活環境保全条例施行規則別表第4の別表第2の算式により算定すること。
- 4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

煙突の口径、笠の有無
排出速度を記入。

添付書類

第 1 号様式

- ・ 付近の見取り図及び所在地を示す縮尺 5 万分の 1 の地形図
- ・ 事業場内における施設の配置図。
- ・ ばい煙発生施設の設置位置がわかる見取り図
- ・ 緊急連絡用の電話番号その他緊急時における連絡方法

別紙 1

- ・ ばい煙発生施設の構造図、操業の系統図（ボイラー等の使用方法がわかる物）

別紙 2

- ・ 使用する燃料の性状がわかる物。
- ・ ばい煙濃度の数値の根拠となるデータの写し
- ・ ばい煙濃度の計算式

別紙 3

- ・ ばい煙処理施設の設置位置がわかる見取り図
- ・ ばい煙処理施設の構造図（煙突の高さ、口径、ばい煙測定口の位置がわかる物）
- ・ ばい煙処理施設（煙突を除く）の処理能力が分かる資料（カタログ、計算式等）